

# 長年

作 幸田 露伴 演出・台本補綴 石川 耕士

## 上演 決定！

ところ 米子市公会堂

とき 11/2・3

郷土の英雄「名和長年」が44年ぶりに新・朝日座に堂々の復活！

西部地区には地歌舞伎（素人歌舞伎）の伝統があり、現在も受け継ぐ方々があります。そんな歌舞伎文化のある地で、歌舞伎台本「名和長年」を44年ぶりに復活上演します。

舞台は幸田露伴の語感の美しさに配慮しつつも、セリフを現代風に直したり豪華な衣装や鎧兜で演出し、親しみの持てる作品にしています。また、かつては、全5幕中3幕までの上演が多かった演目ですが、このたびは全幕の上演です。乞うご期待ください！

### 新歌舞伎「名和長年」とは？

新歌舞伎とは、明治後期から昭和初期にかけて、岡本綺堂や菊池寛、幸田露伴といった小説家が脚本を手がけたものをいい、今回の演目「名和長年」は、明治の文豪、幸田露伴の手によるものです。

「名和長年」はご存知のとおり大山町出身の鎌倉時代の実在の人物で、後醍醐天皇を助け、鎌倉幕府を倒す重要な働きをし

た人物の一人です。

ストーリーは、土地の有力者であった名和長年に天皇からの使者がやってきて、天皇の味方になるよう説得するところから始まります。天皇の味方となる決意をした名和一族は、天皇をお迎えし、船上で幕府軍と戦い、そしてこれに勝利するまでを描いています。

今回の演目「名和長年」は、7代目松本幸四郎の当り役としても知られ、役を演じた幸四郎が長年公を祀る名和神社に参拝した記録も残っています。

### プロデューサーから皆さまへ

このたび、新歌舞伎「名和長年」のプロデューサーをさせて頂くことになりました（財）鳥取県文化振興財団の田中小百合です。

今回上演する「名和長年」は、地元の若手の演劇活動者を中心に創ります。普段は介護施設や飲食店などに勤務するさまざまな職種の方々が、積み重ねる稽古によって舞台を創り上げてい



田中プロデューサー

きます。出演者は16人もいるので、その方々を集約していく苦労はありますが、トレーニングにより日々成長される出演者の方々を見てみると、逆に勇気づけられます。着々と仕上がっていく舞台を、ぜひ、多くの方に観て頂きたいと思っています。

演出の石川先生が「歌舞伎とはミュージカルだから」とよくおっしゃいます。三味線音楽にのせ、歌うように台詞を言うので確かにミュージカルになるのでしょうか。物語の筋を追うだけでなく、立ち居振る舞いや独特の表現方法の面白さを感じて頂けたらいいなと思っています。

普段馴染みのない歌舞伎という伝統芸能を、地元の方が創り、地元の英雄を取り上げる事で、身近に感じて頂けるのではない

かと考えています。このような取り組みから、歌舞伎ファンが増えたらいいと思っています。

新歌舞伎「名和長年」公演を観て、勝ち負けにかかわらず、正しいと信じた道を突き進もうとする名和一族の心意気を感じて頂きたいです。色々な事が停滞したような時代だからこそ、このような胸がすくような物語を味わって、明日への活力にして頂きたいという願いを込めて皆様にお届けします。

### 朝日座って何だ？

朝日座は、明治21年に米子の西倉吉町に建てられた芝居小屋。当時人気の高かった歌舞伎や安来節などの公演を通じ、米子を中心とした近郷近在の人々